

不安を想像し、得意を見つける

神奈川・
藤沢市太陽の家 藤の実学園
猪狩千弥

当施設は定員60名の生活介護事業所です。利用者の多くは重度の知的障がいをもっています。私たちは毎年、養護学校卒業生を1〜3名程度お迎えしています。利用開始時に9〜10名程度で構成される班に所属して、皆と一緒に活動に参加することになります。集団生活を過しながら、仲間同士で役割意識をもち、お互い譲り合いや助け合いをする中で、少しでも社会性を向上できるよう支援しています。

不安な気持ちに 寄り添いながら

新規利用者の方の中には、警戒心（不安な気持ち）がとても強く、身体に触られることが苦手なため、介助をなかなか受け入れられない方もいました。また、自閉的傾向がとても強く、最初のころは

先の見通しが立ちづらくて混乱してしまい、場面転換時に耳をふさいで大きな声を出して床に座り込む方もいました。そういった方々へも、できるだけ個にならず、少しずつ集団の中で過ごしていけるよう支援しています。活動を通じた日々の関わりの積み重ねにより、1〜3年後には班への所属意識や仲間意識が芽生え、ほとんどの方が集団活動に楽しく参加できるようになっています。

養護学校卒業後、新しい施設に通所するにあたり、通う場所や関わる人などすべての環境が変わることに対して、利用者の方がどれだけ不安な気持ちでいっぱいなのか。その気持ちを受け止めて理解することが支援者としてとても大事なことでと考えています。その不安な気持ちを少しでも減らしていくことのひとつとして、利用者一人ひとりのわかりやすさを

探して支援しています。また、表情などをよく見て、「気持ちが悪く着くまで待つ」など、本人のペースやタイミングを尊重しています。

好きなことは何だろうか？

私たちは、新しい仲間の得意なことや好きなことは何だろうか？ といつも考えています。「人と関わることが好き」「絵を描くことが好き」「電車を見ることが好き」など一人ひとりの楽しみや得意なことを見つけていきます。その楽しみや得意なことを活動にも取り入れていき、本人がやりたいことを自分で選択して決められるよう支援をしています。

絵を描くのが大好きな方がいます。利用を開始した当初は、毎日耳をふさいで、下を向きながら家族と一緒に帰っていました。今は毎日たくさんの色のクレヨン



を使って、作品を描いています。支援室にはその方の作品がたくさん飾られています。帰るときには、家族に今日描いた絵のキャラクターを笑顔で伝え、明日描くキャラクターの名前を目をキラキラさせて伝えていきます。家族の方もその姿に「今日も楽しかったね！」と笑顔で話されているのを見て、私はとてもうれしく感じています。

*

学校を卒業した2年後、みんなで成人をお祝いする式典があります。その式典に、多くの新成人が正装をして、凛とした姿で家族と一緒に参加しています。その姿を見て、大人の仲間入りをしたんだな、と感じ、毎年感慨深く思っています。今年もまた、新しい仲間たちをお迎えします。みなさんに笑顔で過ごしてもらえるよう支援していくことが、今から楽しみです。